

次代の環境をつくる人材育成事業

— 幼い園児たちがエコ活動を学び、実践する —

(一財)九州環境管理協会普及啓発部福岡県地球温暖化防止活動推進センター 久志 唯

要 旨

福岡県地球温暖化防止活動推進センターでは、エコ活動を実践する子どもたちを1人でも多く育成することを目的に、小学校・幼稚園・保育園等でエコ出前講座を開催しています。講座を受講した子どもたちは、自らエコ活動を実践する、家庭のエコリーダーとしての活躍が期待されます。今後は「エコ活動」が特別なものではなく、「普通」のこととして実践できる人材の育成が求められます。

1. はじめに

2016年11月、地球温暖化による気候変動に対して、世界が同じ目標のために行動することが約束されたパリ協定が発効されました。我が国日本は2030年までに2013年度比26%の二酸化炭素を削減する目標を掲げています。これは、国をはじめ、自治体、事業者、そして何より国民の協力なしでは到底達成できない目標です。気候変動の実状を理解し、地球にやさしい取組（ここではエコ活動という）を実践する人材を1人でも多く増やしていくことが重要な課題となっています。全国に配置されている「地球温暖化防止活動推進センター」は、地域の拠点として地域に根ざした様々な啓発活動の支援や情報発信を行っています。

2. 福岡県センターの取組

福岡県地球温暖化防止活動推進センター（以下、福岡県センター）では、福岡県や市町村、そして福岡県地球温暖化防止活動推進員（以下、推進員）らと協働して、地域イベントや各種講座の開催を通して、地球温暖化防止に関する啓発活動を実施しています。中でも環境意識の高い次世代人材の育成はとりわけ重要な課題と考え、県内の小学校・幼稚園・保育園等で地球温暖化やエコ活動などについて学ぶ出前講座を開催しています。



講師の話を熱心に聞く子どもたち

3. 子どもたちに伝えるために

「地球温暖化や環境のことって小さい子どもたちに伝わるの?」「話を聞いても理解できないんじゃないか」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。確かに、地球温暖化の仕組みやエネルギーの話を子どもたちにしても伝わらないかもしれません。子どもたちに地球温暖化について学んでもらい、エコ活動を実践する人になってもらうためにはどのように話せばいいのでしょうか?福岡県センターでは、推進員やNPOとともに、何度も話し合っって講座で使用する教材を開発したり、マニュアルを作成してきました。

出前講座では、地球温暖化のことを「ちきゅうがあつ

いっていつているよ」、エコ活動については「みんなができることをやると、ちきゅうもうれしいといっているよ」と話し、子どもたちでも実践できること、例えば残さず食べる、水を出しっぱなしにしない、使わない灯（でんき）は消すことなどを教えています。

また、センターではこうした子どもでも出来るエコ活動を載せた「子ども環境家計簿」を作成しています。これを出前講座で配布し、家庭でこの環境家計簿を使って保護者と一緒に家庭でエコ活動に取り組んでもらうようにしています。子どもたちは、福岡県のマスコットキャラクターである「エコトン」のイラストを使った子ども環境家計簿とシールを使って、楽しく学びながらエコ活動を実践しているようです。

4. 保護者を巻き込むエコ活動

この事業は、当初子どもたちのための環境教育として実施していましたが、副次的効果が潜んでいました。

幼稚園や保育園、小学校等で出前講座を受講した子どもたちは、「今日こんなことをやったよ」と保護者に「子ども環境家計簿」をわたして、講座の内容を話します。「子ども環境家計簿」には大人が読まないと分かりづらい部分があるので、保護者は子どもと一緒にそれを読んでエコ活動を実践することになります。子どもたちは自らエコ活動を実践するだけでなく、保護者のやることもよく見ていて、「使わん灯（でんき）は消すとよ！」とか、「冷蔵庫はすぐ閉めるとよ！」など教えてくれるそうです。

保護者からのアンケートには、「子どもに言われて自分がエコ活動をするようになった」という声がたくさんあります。子どもたちに伝えていたつもりが、子どもたちがリーダーとなって保護者を巻き込み、家庭内でエコ活動が広がっているのです。

5. 「エコ活動」が「普通」に

大人になって何か新たな習慣を身に付けようとしてもなかなか難しいかもしれませんが、子どもたちは違います。子どもたちが一度身に付けた行動は繰り返し継続す

るとそれが「普通」になります。水を使うときは鉛筆くらいの太さで出すのが普通。見ていないテレビは消すのが普通。ゴミは分別するのが普通。買い物にはエコバッグを持参することが普通。今は「エコ活動」と呼ばれるものが、「普通」であり、「あたりまえ」に実践できる人材を増やすことが本事業の大きな目的（ねらい）です。

一方、現状では年に1回程度しか講座を実施していません。年に1回の開催だと、時間が経つにつれエコ活動を忘れてしまうこともままあるようです。エコ活動を一過性のものではなく、それが「あたりまえ」となるにはどうすればいいのでしょうか。

今後は、出前講座を年に1度のイベントとするのではなく、ひとつのきっかけとして継続的に取り組んでもらうような仕掛けづくりが必要だと考えています。例えば、照明スイッチや水道蛇口付近の目に止まるところに注意のステッカーを貼ったり、毎月1日を「エコの日」として集中的にアナウンスしたり、繰り返し意識付けできるような仕掛けです。

出前講座やこうした仕掛けを通して、それを「あたりまえ」に実践できる子どもたちを育成することが、次の課題であると考えています。



水量を確認して手を洗う子どもたち

6. おわりに

今、出前講座を受けている子どもたちは、10年、15年後には成人し、その社会を担う一員となります。

次の地球に生きていく今の子どもたち、この子どもたちすべてが「あたりまえ」のこととしてエコ活動の実践者となるように、今後も福岡県センターは次世代教育を実施してまいります。

